

式 辞

今年の冬は、まるで私たちを試すかのような雪が、長く厳しく降りしきりました。それが、ようやく雲の間から光が差し込む、待望の春が、また私たちの許に巡ってきてくれました。

あなたたちとの二年間は、濃く、楽しく、温かい思い出に満ちた掛け替えのない、宝物のような時間です。その思い出いっぱいの、君たちの青春の第一部が、まもなく幕を下ろそうとしています。

この佳き日、186名の皆さんは「西蒲の雄」吉田中学校を卒業していきます。心よりお祝い申し上げます。



本日はご多用な中、燕市副市長 遠藤一真様を始め、二十一名のご来賓の皆様、そして、多くの保護者の皆様から、ご臨席いただきましたことに感謝申し上げます。

吉中生で最初に名前を覚えたのは、無邪気な笑顔で声を掛けてきてくれた、あなた。

今日は自分の誕生日です、とはにかみながら教えてくれたのは、彼と彼女。いつも太陽のような明るさで、おはよう!! と跳びはねて、挨拶してくれたのが、君。



卒業生の皆さんとの大きな思い出は、私が吉中に赴任して初めての大阪・京都の修学旅行です。猛吹雪のUSJを、みんなの熱気が吹き飛ばしました。1245枚の笑顔カメラに収めて、全員元気に帰ってきたのが、つい昨日のことのようです。

卒業生の皆さんとの大きな思い出は、私が吉中に赴任して初めての大阪・京都の修学旅行です。猛吹雪のUSJを、みんなの熱気が吹き飛ばしました。1245枚の笑顔カメラに収めて、全員元気に帰ってきたのが、つい昨日のことのようです。



君たちは、安定感と安心感に満ちた、頼もしき兄であり、姉だった。それは部活動での、努力の積み

重ねに裏打ちされた、しびれるような眼差しであり、体育祭での地鳴りがするほどの、リーダーシップであり、音楽



祭での、天まで届かんばかりの、澄みわたった歌声であり、真和祭での、様々なカラーがミキシングされた彩りでした。



私は君たちと、この伝統ある吉田中学校とともに過ごせたことを、そして君たちを第79回卒業生として送り出せることを、嬉しく誇りに思います。そして、これからもずっと私の希望でいてほしい。いつも応援しています。疲れた時は、いつでも帰ってきてください。

あなたたち先輩が築き上げてきた「吉中革命」の数々を、既に可愛い後輩たちが、立派に引き継ぎ始めています。



見ていてください。後輩たちは、やりますよ。きっと、さらに進化した「学ぶ吉中 鍛える吉中 心の吉中」にしてくれるはずです。

私は、心の中で、君たちと少しずつお別れをしてきました。私の思いは、校長ビジョンで日々お伝えしてきました。

自分の中学時代を、野球部時代を、もう一回やらせてもらったような、最高に楽しい、夢のような時間を、本当にありがとう。



さあ、旅立ちだ。あなたたちは、必ずしあわせになってください。何が起こるか分からない世の中だけれど、お互いに笑顔で再会できる日を信じて、お別れとしようじゃないか。

さよならは 別れの言葉じゃなくて 再び会うまでの 遠い約束

最後に、この会場すべての皆様の許に、希望溢れる未来が訪れますことを祈念して、結びの言葉に代えさせていただきます。



令和八年三月六日
燕市立吉田中学校 校長 武井正明